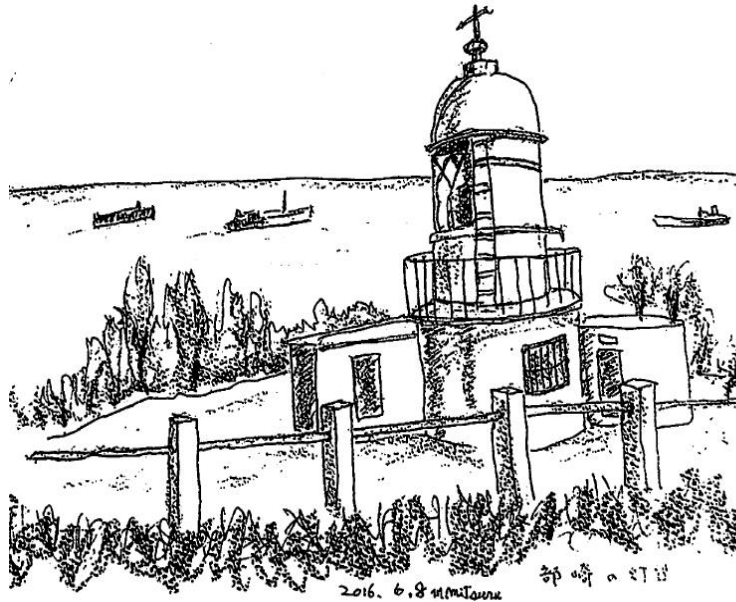


週報2021年6月27日



2021年教会標語聖句

見よ。わたしは新しい事をする。
今、もうそれが起ころうとしている。

イザヤ書43章19節

シオン教会信仰指標：“イエス様と共に歩む”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2021年6月27日

ピアノ：赤松眞佐子 姉 オルガン：力丸勝子 師

司会・メッセージ 山崎銀次郎 牧師

祈祷	開会の祈り
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和
賛美	新聖歌 315「主の御手に頼る日は」
祈祷	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！ *
祈祷	献身の祈り
賛美	新聖歌 325「歌いつつ歩まん」
賛美	コーラス 54「君は愛されるため」
聖書朗読	ルカによる福音書23章32-43節
説教題	「神と人との間に」
祈祷	御言葉の応答の祈り
祈祷	祝福と派遣の祈り

交わりの三省

- * 互いに愛し合っていますか
- * 互いに赦し合っていますか
- * 互いに祈りあっていますか

説教要約

ルカによる福音書 23 章 32－43 節 「神と人との間に」

① 沈黙の意味

ルカは福音書の中(使徒の働きも)で非常に多くの対比を書いています。どういう事かと言うと、イエス様が歩く十字架の道は、多くの人間模様の渦巻く中で進行して行きます。イエス様を取り巻く人達は(律法学者・ピラト・群衆・ヘロデ)皆、口数が多いのに対し、イエス様はほとんど口を開きません。ルカはここに隠された神のメッセージを見えています。

口数の多い人達には、ある共通点があります。それはここにいる全ての人が現状に対する不満を抱え、その怒りをイエス様にぶつけています。それが彼らの正義・正論の裏にずっと隠されています。イエス様の十字架は理不尽の極みです。しかしイエス様は沈黙を貫きました。それは神と全ての人に対するメッセージが込められています。それは“全てを主の御手に委ねる”です。

ヤコブ書 3 章は“舌の制御”について書かれています。つまりこれは沈黙を意味し、祈りと賛美の大切さをここで教えています。その秘訣は現状の全てを主の御手に委ねる事です。平安は能力や環境によって作り出されるものではありません。そのような慢心の結果、制御できない怒りが生まれると、聖書は教えています。全き平安は神から来ます。主の御手に全てを委ねて参りましょう。

② 十字架の意味

今日はふたりの犯罪人の話です。イエス様の両サイドにいる二人の姿勢も対照的です。一方は、人生の最期を迎え、自分の罪を認めず、イエス様を嘲笑しました。彼の根本にある叫びは「この世に救いなんてない」です。ある一方は自分の罪を認めました。しかし大切な事は、「何故彼がそのように認める事が出来たか？」という事です。それはイエス様に救いを見たからです。

イエス様の十字架上の言葉は「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです」。このイエス様の言葉は沈黙を貫いた後、口を開かれた最初のメッセージです。自己中心的な口数の多い人々の言葉と

は対照的に、イエス様の言葉は簡潔で他者中心、自己犠牲による愛の言葉です。十字架とは「神と人の間に立ち、執り成なして下さったイエス様による救い」です。罪を認めた犯罪人は、救いをイエス様の十字架に見ました。そしてその言葉に自分の人生の全てを委ねたのです。

人々の怒りの根本は“対処できない不安”から来ています。そしてそれは怒りや憎しみに派生して行き、争いへと発展していきます。一人の犯罪人はイエス様(神)と自分が争っているという自覚がありません。ここに人の根本的な問題があります。人は根本的な争いの原因を認めるよりも、自分の正論を振りかざします。そこに真の平和はありません。イエス様が執り成して祈られたのは、私達の間に平和が生み出されるためです。全てを背負い、救いの道に導いて下さった、イエス様の十字架に全ての荷を降ろして参りましょう。

③ 生きる意味

二人の犯罪人の姿は対照的だと話しましたが、将来に対するスタンスが全く違います。一人は将来を見ていません。自分出来る最後の抵抗として、イエス様に悪態をつきました。もう一方は世の中の終着点は迎えたが、天国に希望を持ちました。つまり、もう一人の犯罪人はイエス様に先(希望)を見出したのです。彼は自分の“出来る事”としてイエス様に望みを置きました。

「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」この言葉は全ての人にとって希望のメッセージです。24章で、イエス様はよみがえり、エマオの途上の話に移ります。失意の弟子達がエルサレムに戻る事が出来たのはよみがえったイエス様に希望を持ったからです。天国までの道のりをイエス様が共に歩いてくれる。これ以上の希望はありません。

私達が今年掲げる「イエス様と共に歩く」と言う言葉は言い換えると、イエス様に希望を持ち続けるという事です。私達の人生は「何に希望を持つのか？」と言う事が問われ続けます。聖歌の中に「キリストには代えられません」という歌があります。私達は何度でもこの歌の恵みを味わい、キリストに生かされる人生を感謝し、賛美と共に歩く道が開かれています。私達の人生の傷跡や過ちはよみがえりのイエス様によって栄光に包まれた人生へと変えられます。共に主を見上げ前進して参りましょう。